

水辺のノート

その1

暮らしと自然を守る犬上川・芹川河川事業

取材 / 滋賀県彦根土木事務所

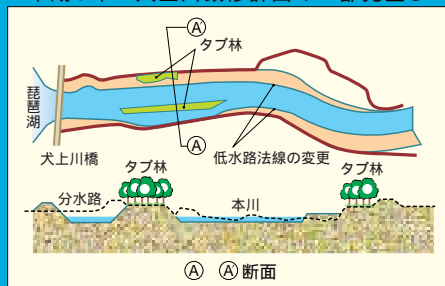
[犬上川]

犬上川には、絶滅のおそれのある野生生物として、危急種や希少種に指定されているハリヨ、ビワマス(魚類)、チュウサギ(鳥類)の生息をはじめ、植物ではタコノアシやタブ林の生育が確認されています。滋賀県彦根土木事務所による犬上川改修計画においては、100年に1回程度起こると予想される大洪水に対しても安全な川づくりを基本としながら、県内屈指のこの豊かな自然をできる限り守るために、綿密な改修計画が立てられました。まず、平成6年度には、改修が最も急がれている河口から1.8kmの区間においてハリヨなどの生物の生息環境に配慮しながら、タブ林を高水敷に残す計画の策定が行われましたが、平成8年度には、さらなる自然環境の保全をめざし、滋賀県立大学の教授陣などの環境問題や河川工学のエキスパート、学識者の協力を得て、計画の一部見直しを実施。とくに、河川内にタブ林を島として残すプランでは、流水を島を境に本流側と水路側に流すこととなり、いくつかの水利的問題が予測されたため、水理模型実験を繰り返し、河川の平面形や横断面、タブ林の島の形状を幾度となく変更し、問題の解決に当たりました。これにより、タブ林の残置率は21%から54%に高まり、自然環境の保全に向けた大きな一歩を踏み出しました。この計画に基づき、犬上川の豊かな自然を次代に伝えるため、人々にやすらぎと潤いをもたらす川づくりが進められています。

平成6年 犬上川改修計画



平成8年 犬上川改修計画の一部見直し



[芹川]

芹川は昔から暴れ川として恐れられ、ひと度、上流に大雨が降るとたちまち出水し、大きな被害を生じました。また、台風による氾濫も数多く、河川の改修工事が急務でした。とくに、河口より上流約4kmは、川幅が30~40mと狭く、水害発生要因となっていました。そこで、昭和41年度より、河床掘削によって洪水時の川の流れをよくする工事に着手。その後、昭和47年からは琵琶湖総合開発事業による流入河川対策対象となり、護岸整備をはじめ、さらなる改修が進められました。このように安全で快適な河川として整備された芹川は、地域の住民にかけがえない水辺空間を提供しています。



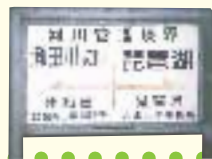
水についてのQ&A

Q 琵琶湖の水は、遠く大阪湾まで流れていることは知っていますが、琵琶湖より瀬田川・宇治川・淀川と河川名が変わる地点について教えてください。(原田幸男さん(大津市))

A まず、琵琶湖と瀬田川の境を左岸では大津市瀬田大江町、右岸では大津市栗津晴嵐町とし、そこから下流を瀬田川と呼んでいます。ここには、境を表す河川管理境界の看板が立っています。瀬田川は滋賀県を過ぎ、京都府に入ると宇治川と名前を変えます。この宇治川と木津川、桂川の三川が合流したのち、淀川となります。

Q 大津放水路の記事は興味をもって読みました。身近に仕事が行われていても何のためにしているのかわかる機会がありませんので、ビワマス通信「子どもクイズ」を見ていたら、岡山県の方があらましか、ビワマス通信「はどのあたりに(府県)」に配付されていますか？

A 滋賀県南部を中心に新聞折り込みを行い、滋賀県内の図書館や琵琶湖・淀川流域の小学校、流域自治体窓口水道局や総務など、流域の博物館、科学館道の駅(あいの土山)などに配布しています。また流域外でも、滋賀県観光インフォメーションセンター(東京都、名古屋、京都市、大阪市)などにも設置しています。くわしくは、あくア琵琶までお問い合わせください。



水に関するみなさまの質問やご意見・感想をお待ちしています。ビワマス通信「Q&Aコーナー」宛までお送りください。採用させていただいた方には記念品を呈します。